

週日の説教

金 大烈 神父 2011年8月5日(金)

《自分の命を失えば何の得があるか》

皆様、今日の福音(マタイ 16・24-28)は私達がよく知っている箇所です。「全世界を手の中に入れても、自分の命を失ってしまえば何の得があるのか」と、イエス様が弟子達におっしゃった箇所です。

この御言葉を知らない人はいませんよね。しかし、この御言葉を意識しながら生きている人は殆どいないのではないかと思います。本当に、この全世界の全てのものが、もし自分のものになったとしても、今晚イエス様が呼び掛けて下さったら何の意味もなくなります。イエス様を信じている私達は、いつも心の準備をしなければいけないことです。今、あなたが求めているものは、そんなに大事なものであるかをいつも振り返ってみてほしいという心だと思います。私達はよく忘れます。意識していても忘れます。ある意味では意識的に忘れようとしているのかも知れません。

さあ皆様、今日一日この御言葉について黙想なさってみて下さい。実際に『たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。』この聖書の御言葉に出会って、聖人の道を行んだ人々が結構いらっしゃいます。この箇所に触れて、今まで自分が歩んで来た全てのことを捨てて、イエス様の道を行って、自分の新しい人生を築いた人が沢山いらっしゃいます。聖人といわれる人達の中にも沢山いらっしゃいます。この箇所がどの位私達の心に響き、重みのある御言葉が振り返ってみましょう。

本当に一番大事なことについて、今日イエス様が私達に話されている箇所ではないかと思います。

さあ、今日は癒しのミサです。これから癒しの秘跡を受けます。いつも申し上げていることですが、本当に心を開いて、「イエス様、全てを委ねます。あなたを信じます。」という気持ちで与りましょう。

ありがとうございました。